

阿権集落の前里屋敷

美しく修復されたこの建物は、阿権集落の名家、平家の先祖伝来の邸宅です。平家の系譜は、江戸時代（1603-1867）の後期まで何代も遡ることができます。ここで暮らした平家の人々は、徳之島の統治権が沖縄の琉球王国から九州の薩摩藩に移った後、地域や島の役人を務めました。行政の中心地として、阿権集落は繁栄しました。その後、明治時代（1868-1912）の初期にこの島が日本の一部となった後も、平家の数名は、引き続き地域の自治体で重要な役割を果たしました。

修復

1931年に建てられた前里屋敷は、集落のかつての威光の象徴です。この家は、その原型を可能な限り残しながら丁寧に修復され、現在は集いの場として利用されています。

文化の融合

庭にある優美な石橋と、家の裏手に積まれた、修復に使われた瓦をご覧ください。隣地から敷地の後方に張り出している巨大なガジュマルの木は、樹齢 300 年を超えていると言われています。緻密に積まれた琉球石垣と日本本土の影響が見られる建築様式の組み合わせは、歴史的に大きな意味を持つこの 2 つの文化の交わりを反映しています。